



(ご案内)

2023年9月15日
日本航空隠岐空港

隠岐空港の「御翔印」(ごしょういん)のご紹介について

JAL は空港を拠点とする地域活性化を目的に“空の御朱印”として「御翔印」と「御翔印帳」を販売しております。今回、第 3 弾として隠岐空港を含めた離島 17 空港の「御翔印」と「御翔印帳」が加わったことで、JAL グループが就航する 55 空港すべてを網羅することとなりました。隠岐空港での販売は隠岐空港売店にて 9 月 16 日(土)からとなります。

空港毎に異なる「御翔印」は『ふるさとの“わ”』(※)の島根県メンバーがそれぞれ筆書き・デザインしたものを印字したものです。

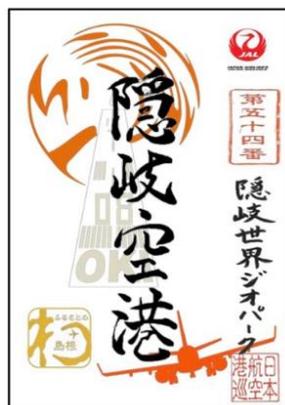
(※)『ふるさとの“わ”』とは、JAL の地域活性化活動「JAL ふるさとプロジェクト」の一環であり、JAL グループ内の業種を超えた取り組みとして、社員のゆかりある各都道府県を盛り上げる活動です。

記

実施内容:「御翔印」(レプリカ)を JAL グループ社員がご紹介いたします。

ご参考:《「御翔印」第 3 弾として展開する離島 17 空港》

沖永良部、久米島、南大東、北大東、多良間、石垣、宮古、与那国、種子島、与論、徳之島、喜界島、屋久島、奄美、隠岐、利尻、奥尻



隠岐空港「御翔印」

デザイン: 隠岐を象徴するローソク島に、夕日が灯る神秘的なその瞬間をイメージしました。

筆入れ: 隠岐に受け継がれている歴史や文化、ユネスコ世界ジオパークに認定されている島の大地をイメージしました。

【別添】

「御翔印」とは…

「歴史ある御朱印をアレンジして国内の各空港に配備し、さらには日本のみならず世界にも広めたい」という思いが込められており、“空の御朱印”としてアレンジすべく、大空を自由に飛び回る「翔」に掛けて「御翔印」と名付けました。

描かれる飛行機のデザインが異なるなど、それぞれの空港ごとに違う味わいをお楽しみいただけます。なお、空港名については、空港の所在地に合わせて、「ふるさとの“わ”」の各都道府県のメンバーが手書きしたものを印字しています。

◎第1弾について

2022年9月23日に11空港で販売を開始し、まもなく1周年を迎えます。

販売空港：札幌(新千歳)、東京(羽田)、新潟、名古屋(中部)、大阪(伊丹)、徳島、
高松、高知、松山、福岡、沖縄(那覇)

◎第2弾について

ご好評につき、2023年3月18日に27空港で販売を開始しました。

販売空港：釧路、女満別、函館、旭川、帯広、札幌(丘珠)、青森、三沢、秋田、花巻、仙台、
山形、成田、小松、関西、南紀白浜、但馬、岡山、出雲、広島、山口宇部、
北九州、大分、長崎、熊本、宮崎、鹿児島



「第一弾 御翔印」



「御翔印帳」

以上